

# ゼミようこそ

Vol. 53

## 及川ゼミ



まつき あすか  
松木 明日香

文学部人文社会学科  
中国言語文化専攻4年  
私立品川女子学院高等部(東京都)出身

現代の中国の思想を知りたい、  
視野を広げたいと及川ゼミへ

大学に進学する際、中国言語文化  
を学ぼうと思ったのはなぜですか？

**松木** 英語以外の言語を学びたかったか  
らです。日本にも中国人観光客が増えて  
いますし、母語話者数世界一の中国語を  
学べば、将来役に立つと考えました。

**道下** 父に中国人の知人がいた関係で、  
上海や香港に連れて行ってもらい、中国  
に興味を持ったのが始まりです。

なぜ及川ゼミを選んだのですか？

**道下** 1年次に及川先生の授業「現代中  
国事情」を受講し、中国の思想に興味を  
持ったのがきっかけです。



みちした ののか  
道下 野々香

文学部人文社会学科  
中国言語文化専攻4年  
東京都立駒場高等学校出身

**松木** 中国関係のゼミはほかにもありま  
すが、現代の中国を扱っているのは及川  
ゼミのみ。中国の政治や事情の「今」を  
学べばより視野が広がると思いました。

「心理的安全性」を大切にした  
グループワークがゼミの特徴

及川ゼミのスタイルを教えてください

**道下** 及川ゼミでは、現代の中国に関す  
ることを思想という観点からみんなで考  
えることを最大の目的としています。

**松木** 現代の中国という日本とは異なる  
世界を知ることによって、多角的な視点  
を養えます。グループワークとディス  
カッション、学期末の発表およびレポー

文学部人文社会学科中国言語文化専攻では、5名の専任教員が各専門分野で3、4年生合同の演習科目を担当しています。専攻では「演習」と呼んでいますが、いわゆる「ゼミ」として学生たちは密度の濃い学びの時間を過ごします。中国語の高い運用能力を育みながら、中国の人々の暮らしや考え方の背景となる歴史や文化について学びます。

「中国近現代思想演習」は、近現代の中国について思想の領域から理解を深める科目です。多様で複雑な中国を立体的に理解するために、自分の言葉で考えて、自分の言葉で表現する自律的な学修を目標としています。

トを軸に、3年生、4年生、合わせて40名ほどのメンバーで学んでいます。

**道下** 毎回、5人ほどのグループに分かれ、及川先生が提示してくださる教材やニュース映像をテーマにグループワークを行います。学年をシャッフルし、普段あまり話したことのない学生同士でグループを組むので、常に新たな発見があります。

**松木** ゼミで最初に扱う教材は、「ヨシタケシンスケ著の「なんだろう なんだろう」という絵本です。子ども向けでありながら深い哲理性のある内容で、人生、思想といった正解のない問いに向き合います。それぞれが出した答えを否定せず受けとめるのがルールで、「心理的安全性」の確保の下、自由に発言できます。

**道下** 日・中・韓の12人の作家によって共作された絵本「へいわって どんなこと？」や、及川先生の著書で書簡を通して天安門事件を読み解く「11通の手紙」のほか、習近平思想を教える中国の教科書も印象的な教材の一つです。

学期末のプレゼン発表やレポートを取り上げているテーマを教えてください

**道下** 今年度の夏、私のグループでは「中国の若い女性が働く上で大切にしている価値観」というテーマで発表を行いました。政府の求める女性像と実際に女性自身が求めていることの差異を知ることが、現在の中国・台湾におけるジェンダー問題を可視化するのが狙いでした。アンケート調査の結果からは、キャリア断絶を望まない女性たちが、同年代の男性よりも結婚や子育てに消極的な感情を抱いていることが明らかになりました。

**松木** 私たちは「中国の若者が働くモチベーション」というタイトルで、中華圏の若者が仕事に対して何をモチベーションにしているのか、それが社会問題にと



## 疑問や違和感を大切に、「考え続ける力」を育む

「群盲象を評す」という言葉がありますが、「中国」の実像を正確に理解することは至難の業です。個別具体的な知識や観点を積み重ねながら、理解を深める努力が求められているといえるでしょう。

私自身の専門は現代中国社会と政治社会思想で、2010年にノーベル平和賞を受賞した劉暁波をはじめ、現代中国のリベラル派知識人について研究しています。一方、「演習」では個別の思想家や特定の思潮を研究対象とするのではなく、中国社会におけるさまざまな課題を複眼的に捉えて、思想的な観点から本質的な問いを立てて考察し、自分の言葉で論理的に表現することを狙っています。

たとえば、「民主」や「自由」という言葉は日本語と中国語で共通しています。しかしその意味するところや実態は、日本と中国で大きく異なっています。授業では単純な比較や批判は少し脇において、中国における「内在的論理」を理解することを目的としています。「中国における“民主”とは何だろうか?」「中国共産党政権が規定する“自由”とは何だろうか?」「個人と社会、個人と国家との関係性はどのようなものだろうか?」……。このように、授業では「何だろうか?何だろうか?」と正解のない問いを繰り返しながら議論を重ねます。

学生たちには、疑問や違和感を大切に「考え続ける力」を育んでほしいと願っています。物事の本質について批判的に考察し、他者との対話や議論を重ねる中で自分の思考を言語化し、自分自身の「思想」を耕すように豊かにしてほしいと期待しています。

おいかわ じゅんこ  
文学部教授 及川 淳子



う関係しているのか、「人気企業」「地方と都市」「最新の業界」という3つの観点から考察しました。この調査・分析では、中華圏の若者のモチベーションは生活と将来の安定にあることが見えてきました。

**現地での実体験も重視 将来に役立つスキルも身につく!**

—— 及川ゼミでは、中国や台湾に実際に行かれる学生も多いそうですね?

**道下** はい。私の場合は、ゼミや授業を通して台湾の多様化についてもっと知りたいと考えるようになり、台湾に留学しました。実際に現地でも生活してみても、すべてにおいて日本より多様化が進んでいるとは思いませんでしたが、何でも受け

入れる台湾の人々のマインドを肌で感じることができました。留学中に選挙があったのですが、日本とは異なるシステムや熱気に触れ、大いに刺激を受けました。

**松木** 私は台湾でのサマープログラムに参加しました。授業では中国語でプレゼンをする場面もあり苦労の連続でしたが、語学の上達はもちろん、偏見なく誰をも受け入れる姿勢を現地の人から学べたのは大きな収穫でした。及川ゼミでは、訪中団で中国を訪れるなど、実際に現地へ赴く学生がたくさんいます。帰国した学生による報告会も定期的に行っています。

—— 最後に、及川ゼミでどんな学びが得られたか、あらためてお聞かせください

**道下** 私は将来、教職の道をめざしています。ディスカッションを通して養われたコミュニケーション能力と、グループワークで下級生を引っ張ることで培われたリーダーシップは、教職でも生かされるところだと思います。多様な価値観を学べたこともプラスに働くと感じています。

**松木** 現代の中国を通して、普段私たちが生活している中では知り得ない事柄に触れ、多角的な視点を身につけることができました。卒業後は広告営業に携わる予定です。道下さん同様、及川ゼミで身につけたコミュニケーション能力やリーダーシップを存分に生かしていきたいと思っています。ここまで私たちを導いてくれた及川先生には感謝しかありません!

- 1 月曜5限 ゼミの時間
- 2 学年を越えて徹底討論
- 3 個人発表と質疑応答
- 4 教員と学生、言葉のキャッチボール
- 5 この絵本がはじめの一歩
- 6 グループワークは笑顔で!
- 7 日本語と中国語で読むテキスト

